

■2026 年度 A 日程 一般入学試験

法律科目試験「刑法」問題の出題趣旨・解説

【出題趣旨・解説】

全体的な印象としては、住居侵入の点を長々と検討し、本来検討すべき点がほとんど記述されていないために低い評価となった答案が多数あった。時間的制約がある以上、全体的な記述のバランスを考慮した解答がのぞまれるところである。

X・Y が A を裸にしてその姿を撮影した点については、行為者に性的意図がない場合の不同意わいせつ罪の成否について判断した最大判平成 29 年 11 月 29 日（刑集 71 巻 9 号 467 頁）を念頭に解答する必要があるが、そもそもこの点に触れていない答案が多かった。A を脅して財物を得ようとしている点は、強盗としてほとんどの答案が検討できていたが、客体が何であるか、具体的にどの行為が問題となるかが指摘出来ていないもの、「反抗を抑圧」ではなく、「畏怖させる」としているもの、暴行と脅迫の定義が逆になっているものなど、構成要件の正確な理解が不十分と思われる答案が散見された。Y が現場で突如性交の意を生じて A を押し倒した点は、強盗・不同意性交等罪の成否が問題となりうるので、その点を指摘した上で、X との共犯関係についても言及する必要があるが、強盗との関連で捉えることなく、不同意性交等罪とする答案が多かった。

X が Y の顔面を殴って傷害を負わせた点については、正当防衛の余地について検討して欲しかったところであるが、緊急避難とするものや、正当防衛としつつも、その要件として補充性を要求するものなど、そもそも正当防衛と緊急避難との相違が理解できていないのではないかとわかれる答案もあった。

以 上